

# 総動員伝道

## 総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

## 信仰を行動に

総動員伝道 代表 姫井雅夫

イエスは復活された後、40日間、人々の間に顕現されました。そして弟子たちに「エルサレムを離れないで、父の約束を待ちなさい」と言われました。さらに

「聖霊があなたがたの上に臨まれる時、力を受けて、地の果てにまでわたしの証人となります」と宣教の使命を託されました。イエスは弟子たちが見ている間に雲に包まれて昇天されました。

弟子たちのそばに白い衣を着た人が立ち、こう言われました。「なぜ天を見上げて立っているのですか」。

### 一、主からの使命

イエスは遺言として「地の果てへの宣教」を命じられました。それを実行に移せるようにと力の源、聖霊の注ぎをお約束くださいました。

### 二、なぜ立っているのか

イエスが雲に包まれて天に昇っていかれるという素晴らしい光景に唖然として弟子たちは立ちすくんでしまったのでしよう

か、そのままの姿勢で呆然と天を見上げ、立っていたというのです。

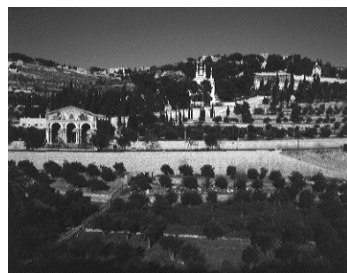
変貌山の時もイエスの姿が変わり、弟子たちはその光景に唖然として何を言っているのか分からなかったのです。ここでも同様の反応です。

「イエスはまたおいでになります」ということばに、「ポーツと立ってはいけませんよ。それまでの間にあなた方になすべきことが言われているでしょ」との意味合いが込められているように思います。

### 三、信仰を行動に

弟子たちは、我に帰ったかのように、言われていた通り、オリブ山(写真)からエルサレムに帰りました。イエスの復活を信じている弟子たち、そして再び戻ってこれるということを信じている弟子たち、信仰はあっても呆然と立ちすくんではいけません。なすべきことがあるのです。弟子たちは早速、エルサレムに帰り、そして言われていたように地の果てにまで宣教の業に取り掛かるう

とします。彼らがまずしたことは何だったでしょうか。同士が集まって、「心を合わせ、祈りに専念していた」のです。



神は彼らの祈りに答えて、聖霊を注ぎ、力を与え、地の果てへと送り出されました。

私たちも「なぜ立っているのですか」と

言われたいようにしたいと思います。イエスはまもなく戻ってこられるかもしれませんが、自然界の脅威をまざまざと見せられ、再臨の前に起こるであろうといわれている聖句と照らし合わせながら、「信仰を行動に」移していかねばならないと感じるのです。ポーツと立ちすくんでいる暇はありません。立ちすくまないで、膝を折りましょう。自然界の破壊の中でうずくまっている人々の様子を見ました。倫理道徳が腐敗している様子を毎日の報道で見聞します。家庭が崩壊しているのを身近に見ています。彼らを永遠の滅びに追いやっているものではないでしょうか。使命は与えられているのです。心を合わせて祈りに専念し、出て行くことはありませんか。

ノンクリスチャンを教会に誘うには  
エリヤ会が実施したアンケート調査によるとノンクリスチャンが教会に来ない理由として次のものが挙げられた。

\*忙しい（日本人の平均的な生活パターンは常に忙しい。でも趣味には何とかして時間を作ろうとする。教会に行くのにあえて時間を作つてまで、とは考えていない）。

\*関心がない（これもまた一般的な日本人の思いだろう。趣味などには異常なほどの執着があるのに、宗教となると、特にキリスト教となると縁遠い）。

\*警戒心（オウム教団の事件などもあって警戒

心が高い。確かに怪しい宗教も多い。変な人になるのではないか、お金を取られるのではないかなど）。

\*なじみがない（日本古来の文化・風習・慣例などからかけ離れていると感じている。何となく違和感を感じると言う）。

\*親の反対（クリスチャンになると結婚できない、とか仕事に差し障るなどと親が反対する）。

ここまででは当人の問題ですし、当人で解決できることです。でもこれからの事は私たち、クリスチャンや教会の課題です。この部分を何とか

## 伝道メモ

50



代の牧師の名前など、一般の人々に関心がないことが載せられている。

\*教会の中に知人がいない・居場所がない（クリスチャンが知人を誘つていればこのようなことはないはず。新来会者にすぐ友となる配慮が必要）。

\*クリスチャンに魅力がない（これは決定的な汚点である。暗い・堅苦しい・とつきにくいなどなど。偽善者という批判もある。クリスチャンが恵まれ、明るく楽しい教会生活をし、誠実な生活を送れるようころしたいものである）。

さて、みなさんはこのアンケートをどう評価しますか。

## 教会を 建て上げる喜び

（信徒のためのセミナー）

小助川 次雄

第六課「教会形成と成長を妨げる要因」の学びの9回目です。

「4」次に教会の中の罪の問題に触れなければなりません。

これは、大変微妙な問題です。決して安易に取り上げられることではありません。

1、このことを考える聖書の根拠をまず見ておきましょう。

旧約聖書ヨシユア記七章に、よく知られているアカンの罪のことが記されています。全体は、ぜひ、直接読んでください。問題は、彼の隠されていた罪が、イスラエル全体の前進を妨げることになったということです。その問題が解決（処理）されたから、進まなければなりません。

また、新約聖書「使徒の働き」五章では、アナニヤとサツピラの偽りの罪が裁かれています。それは、聖霊を欺く行為として断罪されています。

今は、福音の時代に生かされています。

ます。上記のような裁きが同じように適用されるわけではありません。しかし、他の多くの個所に記されているように、いろいろな罪が、神の教会の健全な成長と前進を妨げていることがあることを否定できません。

2、この問題と課題の取り扱い方は、大きく二つに分けられます。

一つは、まず、信徒各自が自己身上に罪がないかどうか、みことばによって吟味することです。そして、示されるところがあれば、素直に御前に悔い改めることです。ダビデの例です。私たちは今、主の十字架の願いによって赦していただけます。

もう一つは、教会として、群れとしての吟味と悔い改めが必要な場合とがあります。これは、指導者である牧師のリードの下でなされることでしょう。旧約聖書にも、「あなたがたの咎があなたがた、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔をかくさせ……」（イザヤ59・2）とあります。ネヘミヤ、ダニエル、その他の預言者や指導者は、父祖たちや自分たちの罪を詫びています。新約聖書では「みこころに添った悲しみ（悔い改め）」が勧められています（エペソ5・9）。このことは、誰にも、どの教会にも必要ではないでしょうか。

◆ 笹尾鉄三郎と日本伝道

中島秀一



いに主の愛の顕現に触れ、すべてを捨ててみこころに従う決意をした。これこそは笹尾一人の生涯に止まらず、その後の日本伝道に大きな影響を及ぼすことになった永遠不滅の一クライシスであった。

米国西海岸のリバイバル

笹尾は1891年(明治24年)、大学を中退してサンフランシスコのリバイバルに身をおくと共に、献身して河辺貞吉のもとで活躍。更にサンノゼにメソジスト教会を設立、シヤトルにて秋山由五郎と共に伝道に従事。このようにして日本伝道の準備が着々と異国の地において整えられて行ったのである。

小さき群

1894年(明治27年)、笹尾は河辺と共に日本伝道の使命を受けて帰国し、まず銀座メソジスト教会の美山貫一牧師を訪問した。そこには御牧碩太郎、土肥修平、須永徳太郎がいた。笹尾は御牧を明確なきよめ信仰へと導いた。その後アメリカ帰りの松野菊太郎、笹尾、河辺が加わって「小さき群」を結成した。彼らは東京から東北にかけて盛んな伝道を展開した。これが日本最初のホーリネス運動と呼ばれるものである。

1895年(明治28年)、この働きは京都における内国勧業博覧会伝道を

経て、嵐山聖会へと発展した。集まった者は先の6名に三田村新七、岡島金弥、吉沢芝五郎、川本政之助、岡崎福松を加えた12名であった。これが日本最初の聖会であって、その後有馬聖会を経て今日の塩屋聖会、関西聖会などに継承されている。

バックストンとの出会い

バックストンは1890年(明治23年)来朝、翌年松江で伝道を開始し、教会を設立し、聖書講話を開始した。初期の重要人物は永野武二郎、竹田俊造、三谷種吉、藤本寿作、堀内文一の5名であった。1896年(明治29年)、厳しい伝道によって霊肉共に疲れを覚えていた小さき群の人々をバックストンは松江に招待した。まず笹尾と秋山が赴き、それからやがて御牧も土肥も河辺も須永も到着した。松江での修養生活は厳しいものであったが、笹尾はだれよりも良くバックストンから聖書とその人格を学び、その敬虔さと深さとをよく体得した。

上京、聖書学院教授

1898年(明治31年)、上京して自給伝道、翌年淡路島福良の自由メソジスト教会の働きに転身。1901年明治34年、中田重治の始めた中央福音伝道館に入り、聖書学校の教授に就任。1904年(明治37年)、聖書学院院長

と淀橋教会の初代牧師に就任した。爾後1913年(大正2年)に至る12年間、教職養成と牧会の奉仕にあたった。

巡回伝道と最期

笹尾は再臨に備えてきよめを説く必要性を痛感し、諸教会巡回の新使命に向かつて進出した。しかし諸教会からの招聘に応えるのは、病身にとっては、まさに死に物狂いの奉仕であった。鹿児島における奉仕において倒れ、1か月後の1914年(大正3年)12月30日、ついに天に召された。46才の若さであった。バックストンは葬儀において「笹尾は主イエスを信じた目的を果たし、忠実に主に従い、今は主イエスの像をもて天国に行った」と話した。

わが国の聖潔運動には、バックストンによる日本伝道隊、河辺、笹尾による「小さき群」、中田・カウマンによるホーリネス派の三つの流れがある。

笹尾はこれら3つに深く関わりを持っていた。いわば今日の聖潔派の要に位置している人物である。この流れの主なものとは日本福音連盟として活動している。その他日本福音同盟や諸団体の中には笹尾の影響を受けたものは多数にのぼる。

笹尾ほど聖潔派教会に大きな霊的感化を与えた人物は他にない。笹尾の聖潔信仰に倣って宣教に邁進する事が現在の教会の急務であろう。

笹尾の生涯は1868年(明治元年)から1914年(大正3年)までの46年という短命であった。それがどのようにしてバックストンの高弟、典型的聖徒、代表的聖徒、殉教的戦士などと呼ばれる人物となったのか。興味のあるところである。

回心と聖潔

笹尾は熱心な仏教徒である伊勢の大庄屋の末子として出生した。長じて紀州藩士であった笹尾家の養嗣子となる。1888年(明治21年)、大実業家になるべく慶応を中退、パシフィック商科大学に入学。奇しくも下宿先の老婦人の熱心な導きによって回心した。その後「みこころの天になるごとく地にもなされたまえ」の聖句に心を刺され、実業家か伝道者か、誉れか恥か、肉か霊かなどと煩悶する中で、つ

韓国教会研修旅行報告Ⅱ

住吉英治

3月号の「教会こぼれ話」で韓国教会研修旅行の感想を書きました。今回は詳しく報告させていただきます。



最初に地球村教会の紹介です。地球村教会の特色は、12人の小グループ制にあります。伸び悩んでいた時、既存の組織・在り方を廃止し、

12人の小グループ制を導入しました。その主旨はお客さんの信徒を減らし、すべての人が奉仕者・働きの人になることにあります。この小グループが最小単位として互いに交わり、活発に動き、国外宣教師などを支援し、また伝道します。その群が13人になれば二つに分け、また12人を目指すという具合です。教会員数が約2万人ですから、かなりのグループになります。リーダー訓練会が頻繁に行われ、教育・訓練・指導を受けています。地球村教会は多くの宣教師を送り出し、また他教団・

教派、キリスト教関係の働き、宣教師たちも支援しています。私たちの教団に属する韓国の先生方の



数人もサポートを受けているようです。まさに地球規模の宣教の働きです。もう一つは五輪教会です。この教会は昨年12月に献堂したばかりの地上10階、地下4階の建物です。五輪教会の特色は、何とんでも最上階のバスケットコートです。10階フロアすべてがコートなのです。私たちが訪問した時、50名位の若者が汗を流し、バスケットに興じていました。スポーツを通しての若者獲得です。地球村教会もそうでしたが、建物内にすきな



喫茶店があり、ゆつくりすることができます。私たちの宿泊した世界教会協力センターにも喫茶店があ

り、よい伝道をしていました。日本と言う福音喫茶です。五輪教会のもう一つの特色は、会堂で、劇場風の作りです。主旨はコンサートなどを開き、地域の方を招くことにあります。主日以外は地域や各教会に貸し出しもしています。1階は結婚式などができる豪華なホールで、地下1階は食堂です。ここで披露宴も行うので、テーブル、椅子は特別インドネシアから輸入したそうです。あらゆる面に新しい人を迎える気配りが伺えます。



韓国から帰って研修旅行の報告をしました。教会員の方から余りにも規模が違いすぎて、参考にならないとの声が多くありました。また牧師仲間からもそのような声がありました。しかし、今回の引率者であった趙南洙先生(日々のみことば)「責任者は、韓国でやれることは日本でもやれるのではないでしょうかとチャレンジしておられます。私たちもそれぞれにチャレンジしてみましょ。

●ご支援、感謝いたします。

小さな草花にも自然の動きを感じます。とはいえ、今年は大雪の年で、苦労しておられる地方が多いと思います。夏のトラクト配布に向けて準備が始まっています。総伝が自費で地方への伝道を行なっています。なるべく地方の負担を少なくしようと思うと、総伝の負担が大きくなります。全国の皆さんのご支援がなければなしえない業です。よろしく応援してください。

5月にはバーベキュー付路傍伝道を東京で実施しようとしています。お祈りください。

1月会計

|          |         |
|----------|---------|
| 収入       | 415,150 |
| 活動費      | 94,517  |
| ニュース印刷発送 | 45,428  |
| 部屋代      | 194,866 |
| 人件費      | 0       |
| 積立       | 10,000  |
| 支出計      | 344,811 |
| 累計       | -96,370 |

2005年4月1日発行  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1  
OCC、614号室

総動員伝道

03-3291-5035  
03-3291-5266  
Eメール sodoin@ybb.ne.jp  
ホームページ  
http://www.gospeljapan.com/sodoin/  
振替 00140-1-107255  
代表 姫井 雅夫  
編集 住吉 英治 (送料別)  
定価 一部 10円  
印刷 新生宣教団 (2,500枚)